

00 背景



現代社会において、核家族、単身、ひとり親世帯など、家族の形態が多様化している。

同時に、携帯電話やインターネットを介したコミュニティの発達により地域に依存する必然性が薄れ、内側や個で完結するものへと変化してきた。

しかし家庭内や街での生活の一部には様々な表情が隠れている。

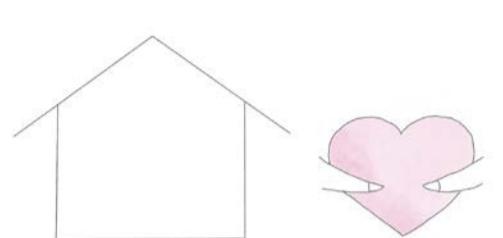
人と人との関係性を生み出し、家族と地域社会の双方の豊かな場面を再認知することのできる住宅を提案する。

02 住宅の役割

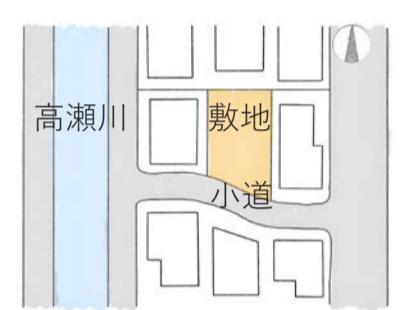
住宅の役割は生活の中心であり、心のよりどころである。日常を形成し、家族においても精神的な安定を求める関係である。

家族とのコミュニケーションによる効果

- ①心理的な安心感
 - ②相互理解の深化
 - ③メンタルヘルスの向上
- 生活する中で欠かせない要素



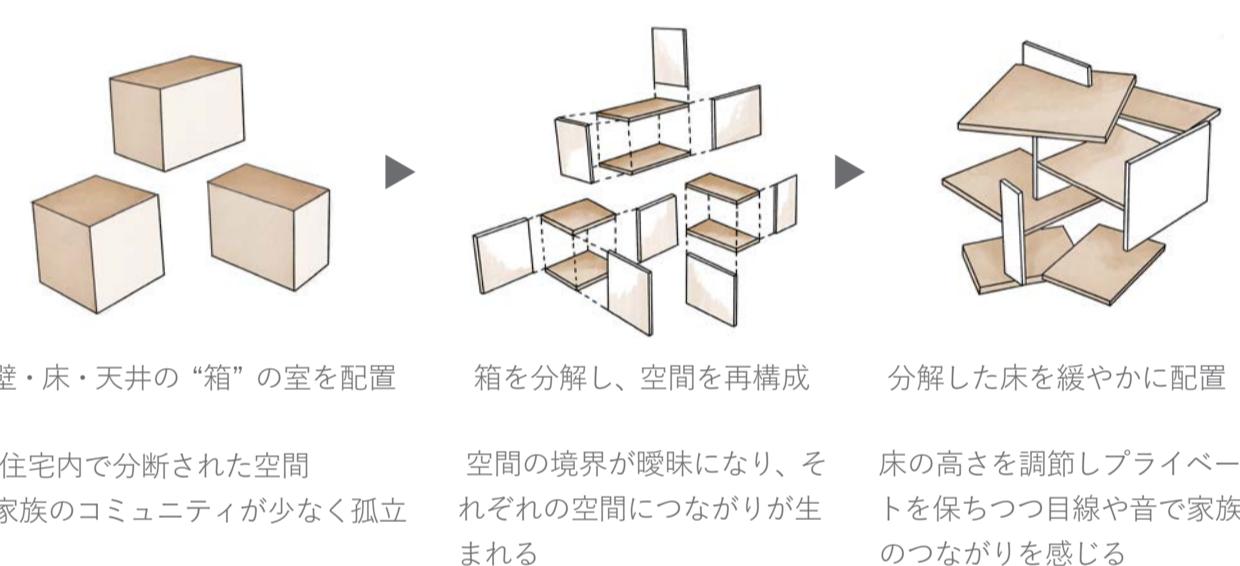
03 敷地



家族構成 夫婦、子供1人
構造 木造
敷地面積 125.78 m²
延べ床面積 119 m²

京都府京都市高瀬外に面する、住宅街の一角に設計を行う。
南側には小道があり、下校する子供や学生や散歩をする人など
よく利用される道。西側道路幅員4m、東側道路幅員8m。

04 家族内の境界を分解



壁・床・天井の“箱”の室を配置
空間の境界が曖昧になり、それぞれの空間につながりが生まれる
家族のコミュニティが少なく孤立

空間の高さを調節しプライベートを保ちつつ目線や音で家族のつながりを感じる

住宅内で分断された空間

家族のコミュニティが少なく孤立

空間の高さを調節しプライベートを保ちつつ目線や音で家族のつながりを感じる